

第 49 回産業遺産学会総会

去る 2025 年 5 月 31 日、福岡県北九州市にある九州国際大学 KIU ホールに於いて第 49 回産業遺産学会総会が開催されました。

まずは学会員による予算、昨年度の活動、今後の財政健全化策等についての議事が行われ何れの議案も賛成多数を持って可決承認されました。

引き続き 2025 年度推薦産業遺産として第 133 号:厚別山水車器械所遺構(北海道札幌市)、第 134 号:日芳橋(岡山県井原市)が選定され、当日御出席をいただきました厚別山水車器械所遺構の認定式が行われました。

続いて総会シンポジウムとして「埋蔵文化財としての産業遺産 - 初代門司駅遺跡をめぐって」の講演が行われました。

初代門司駅は 1891 年 4 月 1 日に現在の門司港駅があるところよりも東側に寄った場所に建設されました。今回、その場所に複合公共施設が建設されることとなり工事を行おうとしたところ遺構が発掘されました。その遺構を保存するようにとの意見が多く寄せられ、イコモスもヘリテージアラートを発するという異例の事態になったのですが北九州市当局は意見を聞くことなく建設を強行しようとしていて、遺跡は完全にとっていいほど破壊されました。

このような事態に至っているせいか人々の関心は高く、地元市民のみならず九州各地、関西、関東、北海道等の各地からの出席があり合計 70 名に上り、出席者の構成も研究者、学生、一般市民、行政関係者等多岐に渡りました。

人々の関心を惹いたシンポジウムで最初の登壇者となりました筑紫女学園大学教授で九州産業遺産研究会会長の時里奉明(ときさと のりあき)氏は、旧門司駅の位置、概要について述べ以下に続く講演者たちへの道筋をつけました。

次に登壇しました熊本県阿蘇草原再生・世界遺産推進課の安部和城(あべ かずき)氏は発掘調査の成果を述べ開業時の鉄道に関連する遺跡、二代目駅舎に関する遺跡、さらに遡って門司築港以前の遺跡について年代を追って説明し、海浜部と埋め立て部にどのような技術が用いられて造られたかということを説明して門司港と旧門司駅こそが北九州市の原点であり、保存が必要であったのに破壊されてしまったと述べました。

続いての登壇は会場となりました九州国際大学の名誉教授で産業遺産学会会長である清水憲一(しみず のりかず)氏は初代門司駅の歴史、誰がどのように建設に関与したかを説明し希少な鉄道遺構の保存が必要であり、国際記念物遺跡会議(イコモス)が二度に渡ってヘリテージアラートを発して警告したにも関わらず遺構群が破壊されてしまった経緯について述べました。

九州大学大学院教授で九州考古学会会長の溝口孝司(みぞぐち こうじ)氏は、日本イコモス国内委員会副委員長を務めるという顔も持っていて、旧門司駅遺構の破壊は国際社会全体にとっても大きな損失であり、強い非難という異例な言葉を使って警告したにも関わらず破壊されてしまったと述べました。

森ゆみ子(もり ゆみこ)氏は北九州市議会議員で、市当局が開いた説明会が遺構の重要性、

保存の必要性について語るのではなく複合公共施設が如何に素晴らしくて必要なものかを述べることに終始していたこと、議会の対応も数の力による運営であったと述べました。

最後の登壇者となりました吉田清春(よしだ きよはる)氏は地元で 140 年続く老舗の四代目店主で、住民説明会での意見が一旦立ち止まり再考すべきであるとの意見が殆どであったのに関わらず市当局が遺構の破壊を強行してしまい後世に繋ぐべき伝統が失われてしまったと述べました。

その後に開かれましたパネルディスカッションは、どのパネリストも保存が必要であった遺構が北九州市当局の押し切りによる形で失われてしまったとの意見交換となりました。

このように初代門司駅遺跡保存の重要性が語られたのにも関わらず北九州市当局が強行してしまったのには文化財保護と私権との絡みの問題があるとのことを今更ながらに知らされました。

翌 6 月 1 日は天候にも恵まれて門司港駅周辺の観察会となりました。この一帯はレトロ建築の宝庫ともいえる場所ですが、代表的なものが当の門司港駅です。

門司港駅構内



門司港駅駅舎



その前に見える三井倶楽部は現在レストランとして使われたり林芙美子の記念室があったりします。表から見ると洋館ですが裏に回ると和風という建物で、そのおかげで国の重要登録建造物に指定されています。

三井倶楽部と隣同士なのが門司郵船ビルで、さらに隣には旧大阪商船ビルとレトロ建築が並んでいます。

少し足を延ばしたところにあるのが九州鉄道記念館で、その近くには三宜楼(さんきろう)という料亭があります。

三井倶楽部は正面から見ると洋風建築



裏に回ると和風建築となる



門司郵船ビル



大阪商船ビル



九州鉄道記念館



三宜楼



さらには旧門司税関などもあります。

旧門司税関



このように門司港一帯はレトロ建築の宝庫ですが、関門海峡を渡った下関側も同じようにレトロ建築の宝庫と言える場所です。この関門海峡を渡る方法としてお勧めなのが人道トンネルを利用することで途中に山口・福岡両県の境界線があります。

海底にある県境(双方の側から撮影)



こうして渡った下関は古来より壇ノ浦の戦い、巖流島の戦い、長州藩による四国艦隊砲撃などの歴史的事件の舞台となった場所です。

こちらにあるのが旧英国総領事館、旧秋田商会ビルなどです。

旧英国総領事館



このように門司地区、下関地区双方ともに歴史を感じさせる場所ですので百聞は一見に如かずで一度足を延ばされてはいかがでしょうか。

旧秋田商会

